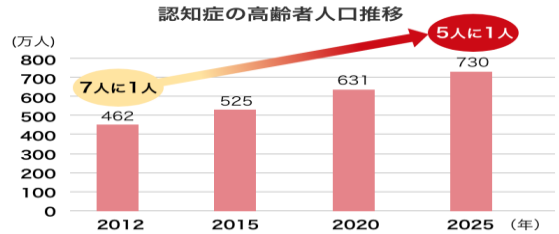




# ほうかつだより

～認知症になっても安心して暮らせるやさしいまちを目指して～

令和6年11月現在、久留米市の高齢者人口は84,590人で、**認知症高齢者の推計値は令和2年13,875人(16.7%)**でしたが、**令和7年には15,714人(18.5%)**となり、**認知症は誰でも関わりうる身近なもの**になっています。



2014年 厚生労働省「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」により当社算出

## もの忘れチェック ～このような症状はありませんか？～

- 慣れた道でも迷うことがある。
- 些細なことで怒りっぽくなった。
- 下着を替えずに身だしなみを構わなくなった。
- しまい忘れや置忘れが増え、いつも探し物をしている。
- 「頭が変になった」と感じる。
- 新しい事が覚えられない。

早期発見の目安  
(気づきのポイント)

※あくまで気づくためのポイントで医学的な判断基準ではありません。(久留米市認知症支援ガイドブックを参考に作成)

↓  
住み慣れた地域で生活するためには  
**早めの気づき・対応が重要です！**

医療機関への早期受診により、**認知症の進行を遅らせることや症状の軽減が期待**できます。また、介護サービスを利用することで、**生活機能の維持が可能**となります。

### 相談対応の一例

本人  
最近、忘れっぽいし、探し物が増えたなあ。

本人



家族

何回も同じ話をしているし、一人暮らしなので心配。

地域包括支援センターに相談

### 状況確認のため、自宅を訪問する

まずは、かかりつけ医への相談を勧め、介護保険の認定を受ける支援を行いました。介護保険の認定を受け、ケアマネジャーが関わり、様々なサービスを受けることとなりました。

包括

本人の症状に合わせた内服治療を開始しました。介護サービスを受けることや**地域の見守りを受けながら、自宅での生活を続けることができます。**

※これは一例です。相談内容により対応方法は異なります。

本人

次回、3月号では『介護予防への取り組み』についてお伝えします。

発行：一般社団法人くるめ地域支援センター

くるめ地域支援センター

検索

<http://www.hokatu-kurume.or.jp/>



セーフコミュニティ国際認証都市  
久留米市

# ～認知症支援への取り組み～

認知症の人も含む**誰もが安心して自分らしく暮らせるまち**  
「くるめ」をめざして、認知症についてみんなで正しく理解し、  
認知症の人やその家族のちょっとした困りごと（望みごと）を  
サポートする活動に団体として取り組みませんか？

## 認知症サポーター養成講座

個人での取り組みは  
こちらから！



認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かい目で見守る「**応援者**」です。

認知症の人への接し方や対応方法について学ぶことで、**個人**で声掛けや見守り等の活動に取り組みます。

## オレンジ協力隊養成講座

オレンジ協力隊は  
令和5年10月からの取り組みです。



オレンジ協力隊とは、認知症の人や家族を温かい目で見守り、ちょっとした困りごと（望みごと）をサポートする「**支援者**」のあつまり（グループ）です。

認知症サポーター養成講座を受講した**地域団体や企業等**が、オレンジ協力隊養成講座で認知症の人への接し方をより深く学び、認知症の人や家族の望みごとに対して、**団体としてできることを考え、「明日からできること」を宣言し**活動に取り組みます。



**現在、24の団体がオレンジ協力隊として活動しています！**（令和6年12月11日時点）

《オレンジ協力隊の活動宣言内容例》

- 認知症の方も参加できる活動を行い、必要時は民生委員や地域包括支援センターへ繋げる
- 日頃から挨拶する
- 認知症の方の話を否定せず何度も聞く
- 認知症について地域に周知していく

※久留米市ホームページ「久留米市チームオレンジ」より一部引用

☆各講座の申し込みは、久留米市長寿支援課（0942-30-9038）まで☆